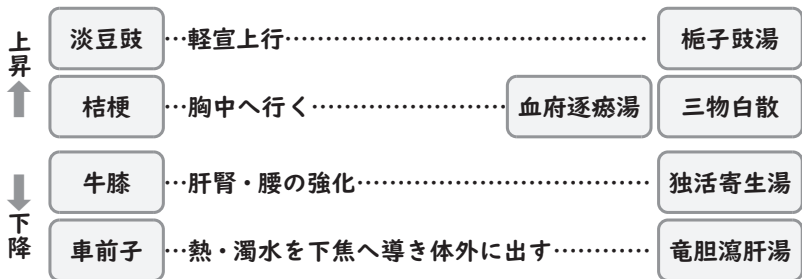


3 主要薬物の昇降浮沈の薬性

中医薬の昇降浮沈の性質は、臨床応用に際し重要な目安の一つとなる。つまり伝統中医薬の応用は現代薬理学を基礎とせず、薬物投与に対する人体の反応を重視する。「桔梗は載薬上行の舟楫であり、昇と為す」、「牛膝は引薬下走の载体であり、降と為す」、「桂枝は表に走り、浮と為す」、「肉桂は裏に走り、沈と為す」、「浮萍は疹斑を透発し、開と為す」、「牡蛎は潜陽し、収斂し、闔(閉)と為す」など薬物には特性がある。中医薬治療の本質は、薬物の昇降浮沈の特性をもって人体の昇降・出入運動の失調を矯正することにある。たとえ良薬であっても、昇降浮沈の特性を生かすことなく、現代薬理学ばかりを追究するならば、理想の治療効果は収められないであろう。

中医薬の昇降浮沈の特性はまず、「神農が百草を嘗める」ところから始まり、以降永い年月をかけて歴代の医家が患者の服薬反応を観察することで徐々に充実してきた。薬物の昇降浮沈の特性こそ中医薬の魂である(図30)。それゆえ中医薬を伝承する秘訣は用薬・薬用量にある。用薬は昇降浮沈の薬性から外れることはできず、薬用量の変化は人体の昇降・出入・開闔運動を左右する。よってここでは臨床応用の面から代表的薬物の昇降浮沈の薬性の重要事項を解説する。



(図30) 中医薬を特徴づける昇降浮沈の特性

1 昇浮の性質をもつ薬物

「昇浮薬」は上・表へ向かって作用する性質をもつ。昇浮薬は解表，透疹，発散，昇陽，挙陷，昇提，托毒などの治療に用い，病位が人体の肌表・太陽経・上焦・肺などにあり，外感，鬱滯，気虚などの病理を呈し，病勢が下方向，内陷，下陷を示す場合などに適応する。

1-① 升麻

升麻は甘辛味・微寒性であり，昇散の効力が強い。これが升麻という名の由来である。

升麻は微寒性で清熱作用があり**軽清・昇浮・散**という薬性をもつため，肺胃の邪毒の透解，脾胃の清陽の気の上昇促進など，発表透疹，解毒昇陽の効能をもつ。

Aそのため麻疹の初期で発疹不十分な場合や肌表の風邪，陽明経頭痛などに**葛根**と併用する。処方例は**升麻葛根湯**である。

B熱毒による咽喉赤腫痛，瘡瘍腫毒に対しては**牛蒡子・桔梗**と併用する。処方例は**普濟消毒飲**である。

C非常に強い胃火による口瘡，齒齲糜爛，口臭の場合には**清胃散**のよう

麻疹初期・陽明経頭痛等	升麻葛根湯	升麻・葛根・芍薬・甘草・生姜
咽喉赤腫痛・瘡瘍腫毒等	普濟消毒飲	黄芩・黄连・陳皮・甘草・玄参・柴胡・連翹・板藍根・馬勃・薄荷・白僵蚕・升麻・牛蒡子・桔梗
口瘡・齒齲糜爛・口臭等	清胃散	黄连・生地黄・牡丹皮・升麻・当帰
気虚下陷による慢性下痢・脱肛・子宮下垂・胃下垂等	補中益気湯	黄耆・人参・白朮・甘草・生姜・大棗・陳皮・当帰・柴胡・升麻
大気下陷・宗気下陷	昇陷湯	黄耆・柴胡・升麻・桔梗・知母

にして用いる。

㊦ 升麻は陽気を上昇させる。このことから気虚下陷による慢性下痢、脱肛、子宮下垂、胃下垂や宗気下陷などに**黄耆**などと併用する。処方例は**補中益气湯**や**昇陷湯**である。

1-② 葛根

葛根は甘味潤性・辛味散性・偏涼性の薬性を具え、**軽・揚・昇・散**という性質をもつ。

㊦ 辛味で「散・軽・揚」の性質をもち、筋脈を潤し攣急を解く効能がある。このことから外感病の表証で太陽病期の発熱、悪寒、無汗、項背部の強ばり、頸部の凝り、肩凝りなどを伴う場合に繁用するが、その代表方剤として解肌退熱の効能をもつ**葛根湯**は周知されている。またこの場合、**柴葛解肌湯**も繁用する。

㊦ 葛根は「軽・揚」の性質から斑疹を出し切る。特に発疹不十分な場合に発疹を促す。処方例は**升麻葛根湯**である。

㊦ 葛根は胃中の清気を鼓舞して津液を上昇させ、生津止渴の効能がある。そのため熱病の口渇や内傷の消渴によく用いる。

㊦ 葛根は清陽を上昇させるので下痢を止める。泥状便、水様便に**白朮**と併用し、**七味白朮散**として用いる。黄色臭穢便の場合には**葛根黄芩黄连湯**として用い、優れた効果が得られる。

外感病・太陽病期 発熱・悪寒・無汗・項背強	葛根湯	葛根・麻黄・桂枝・芍薬・大枣・甘草・生姜
太陽・少陽合病	柴葛解肌湯	柴胡・葛根・麻黄・桂皮・黄芩・芍薬・半夏・生姜・甘草・石膏
麻疹初期・発疹不充分等	升麻葛根湯	升麻・葛根・芍薬・甘草・生姜
泥状・水様下痢	七味白朮散	人参・白朮・茯苓・藿香・葛根・木香・甘草
黄色臭穢下痢	葛根黄芩黄连湯	葛根・黄连・黄芩・甘草